

事業完了報告書（実行団体）

事業名:	とちぎ新型コロナウイルス対応緊急助成事業
資金分配団体名:	特定非営利活動法人とちぎボランティアネットワーク
実行団体名:	特定非営利活動法人キーデザイン
実施時期:	2021年6月～2022年2月
事業対象地域:	栃木県中心
事業対象者:	不登校に悩む子どもとその家族

Version 3.2

日付: 2022年3月14日

I. 事業概要

事業実施概要	<p>○個別LINE相談窓口開設 子どもの不登校に悩む保護者が気軽に相談できるLINE相談窓口を運営。相談支援員は3名体制、平日を相談対応可能とした。子どもとの関わり方、学校とのやり取りについて、また場合によっては夫婦間や経済的な面についても相談を受けた。期間中、問題なく運営ができた。</p> <p>○同じ境遇の親同士で話をする親の会の運営 個別の相談支援ではなく、保護者同士で話をするにより、お互いに気持ちを伝え共感しあったり、支援の情報について共有したりといった場をオンラインで開催した。支援員2名体制で運営し、月1回運営予定であったが、予想以上にLINE相談の対応に時間が割かれ、結果的には〇回の実施となった。</p> <p>○県内居場所マップの作成 栃木県内の子どもが行くことのできる居場所をまとめたマップを制作する。昨年秋に実施された、栃木県教育委員会主催の「フリースクール等連絡協議会」に参加のあったフリースクールを中心に掲載する。</p>
--------	---

II. 課題・事業設計の振り返り

課題設定、事業設計に関する振り返り	<p>○課題設定と行動の適切性 私たちが問題視したのは、不登校児童生徒が年々増加すると同時に子どもの自死も増加していること背景には、不登校から親子関係においての不和が生まれること、また子どもだけでなく保護者自身も孤立してしまうことがあるのではないかとこの点。その課題解決の方法としてLINE相談窓口や親の会などを運営した。結果この助成期間だけで、想定を超え開始当初の約3倍（LINE相談登録者目標404名→1330名）の登録数に増え、中には「どこにも相談できずこちらに頼る思いでとどりました」「夫婦間でも意見が合わず、友人知人に頼ることもできずこちらに相談しました」といった声も多く届いた。やはり家庭内外において保護者が誰にも相談できずひとり悩んでいる孤立の状態があったことがわかり、またそれに対して気軽に相談できる「無料の」「LINEを使った」相談窓口を運営することが適していたと感じている。</p> <p>○プロセスの変化 実際にLINE相談対応をする中で、相談内容も重く（家庭内DVや保護者の精神的な病など）、他県で対面的な支援が難しいケースもあり、難しい局面も少なくなかった。その地域の行政窓口やNPOなどを調べ、相談。可能であれば協力を依頼するといった形で対処するなど、個別支援に想定以上の労力が割く必要があったため、親の会の運営に時間をかけることが難しかった。相談件数が増えているからこそ、1対1の個別支援だけでなく、より多くの方に届けられる親の会へシフトさせていくことが今後の1つのポイントである。</p>
-------------------	--

III. 今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）※複数設定の場合はコピーし複数記載ください。

①受益者	②課題	③今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	④指標	⑤目標値・目標状態	⑥結果	⑦考察
その他	相談先の不足	<p>①相談窓口、親の会 両利用者合わせ計100名が利用し、不登校の子どもの子育てを孤立せず行うことができている。</p> <p>②居場所マップ マップが完成し、県内のNPO、中間支援センター、飲食店、小売店など50か所以上に設置され、不登校で行き場のなくなった子どもたちに行き場ができる。</p>	<p>①LINE相談窓口の利用者数 ②設置箇所数、郵送数</p>	<p>①現在のLINE登録者数+100名 親の会参加者数20名 ②マップ印刷数15満部、県内箇所50か所にマップが設置されている状態。</p>	<p>①助成開始当初のLINE登録者数+926名 親の会参加者数20名（4回） ②マップのデザインは作成できたが、印刷まで完了できなかった。まずは市内の小児科等病院や中間支援センター、子どもの居場所を中心に200箇所以上へ配布を進める。</p>	<p>受益者：保護者 LINE登録者がこれだけのびたのは、クラウドファンディングの実施や、多数メディアにも掲載されたことが要因として考えられる。まだまだニーズがあるところに情報を届けられていなかったのとわかり、1人でも多くの方に届けられるよう、今後は広報活動にも力を入れていく必要がある。マップ作成について、作成が計画通りにいかなかった。背景には様々な要因があるが、教育委員会との連携の難しさといったところもあり、今後はより教育委員会や学校との連携がカギになることを実感した。</p>

IV. アウトカム（事業実施以降に目標とする状況）*

事業実施以降に目標とする状況	<p>①相談窓口、親の会 2021年度中に相談員1名増員。福祉専門職による研修も開始。2021年5月よりオンラインでの親の会を試験的にスタート。月1開催を安定させ、2022年3月以降は月2回実施できるよう体制を整える。</p> <p>②居場所マップ 県内居場所マップは2022年1月までに完成。県の後援をもらい、県全体の児童生徒の保護者の目につくよう広報する。（学校での直接配布や教育委員会HP掲載など）</p>
考察等	<p>①相談窓口、親の会 親の会の実施に関して、助成期間中は計画通り運営することが難しかった。結果的に計4回の実施になり目標より少なくなってしまうため、まず次年度は月1回開催を目標に設定し行動していく。相談件数の増加に伴い、個対個の支援だけではスピードが遅くなることも考えられるため、より早く孤立感を解消する可能性を持った「親の会」の安定した実施・運営が必要である。</p> <p>②居場所マップ 教育委員会との連携に難しさを感じた。ただ、あくまで今回の期間中に難しかった、ということであるため、これから地道に関係性を構築していき、2、3年を目標に教育委員会と連携できるように目標設定をし直す。今はまずマップを広め、その効果を測定、この事業の価値が教育委員会にも認められるよう実績を積み上げていく。</p>

V. 活動

活動	進捗	概要
すでにLINE相談窓口は運営している（24時間相談受付可/日のみ休み）。相談窓口は5月11日現在登録者数403名。オンライン親の会2回実施。	ほぼ計画通り	

相談支援員を3名雇用、マップ作成補助員を1名雇用し、初回の打ち合わせ、研修等を行いスタートを切る。	遅延あり	支援員3名のうち2名は予定通りスタートしたが、1名のみ支援員個人の都合により1か月スタートが遅れた。その後は計画通り。
相談支援は通年行い、親の会は毎月2回実施する。7、9、11、1月は研修を行い、相談支援の質向上を図る。	遅延あり	研修は4回予定が2回となり、親の会は月2回実施予定だったが全体で4回となった。LINE相談支援への対応が想定以上にニーズがあり、そちらに労力を割かねばならない状況になり、こういった結果となった。
居場所マップに掲載するフリースクールや適応指導教室などのリストアップ、マップの内容を練る。	計画通り	
掲載候補先へ連絡、掲載の可否をとり、許可が下りれば掲載内容を収集する。この間、マップのデザインを外注し、デザイン案を練る。	遅延あり	掲載候補先の掲載する情報収集が遅れ、年明けになった。教育委員会との連携の面で難航し、結果不可だったことで、マップ内容の再検討などが入り、動きだすまでに時間を要した。
マップへ情報を落とし込み、デザインを具体的にしていく。追加が必要な情報等がないか検討し、より質を高めていく。この間、県教委や学校等とやり取りし、保護者へ直接配布ができないか打診する。	遅延あり	理由は上記と同じ。
居場所マップ完成⇒印刷。県内の設置・配布可能な場所を探し、リストアップ。郵送するための準備に入る。	遅延あり	理由は上記と同じ。3月中に印刷に取り掛かり、4月までに発送に取り掛かる。
梱包作業、郵送作業⇒教育現場や保護者へ届く。	遅延あり	理由は上記と同じ。4月以降、順次発送していく予定。

VI. 想定外のアウトカム、活動、波及効果など

想定外のアウトカム、活動、波及効果など	<p>○当初は予定していなかったクラウドファンディングを実施し、243名の方より約350万円の支援をいただくことができた。もちろん支援者の中には不登校経験者や当事者もいたが、このクラファンをきっかけにこれまで不登校とは直接関係のなかった一般の方も支援に動いてくださり、応援者増につながったと感じている。この助成金のない状態で運営していた昨年度は、人間的にクラファンを実施することも難しかったことを考えると、この助成金があったおかげでクラファン実施もでき、応援者も増えたと私たちは捉えている。今回の期間を通して企業サポーターも2社増えた。</p> <p>○コロナ禍の影響についてアンケートをとることができた。窓口登録者のうち158名の保護者よりご協力いただき、コロナ禍が不登校にどう影響を与えたのか調査することができ、地元紙に掲載されるなどし、ひろく一般に認知をされた。詳細は当会ホームページトップに掲載。個々の事例や声だけでなく、こうした形で客観的にも見やすくデータを取りまとめることにより、より社会への理解が促進されていくものと考えている。</p>
---------------------	---

VII. 事業終了時の課題を取り巻く環境や対象者の変化と次の活動

課題を取り巻く変化	<p>○相談者には個々の支援と、複数人での支援と、間をあげない支援が必要</p> <p>LINE相談支援の中で、一定期間やり取りをすると、保護者の気持ちが安らいだり、子どもとの接し方が見つかったりするが、保護者自身、仕事や家事育児と忙しいため、その後数日から数週間やり取りがなくなることも多かった。その期間中に、子どもの変化も置き、それに対応できない保護者もまた悩み、辛い状況になるといったこともある。個別支援は相談者からの「相談しよう」という姿勢がなければ、こちらからアプローチすることもできず、支援に至ることが難しい。そのため、親の会や専門家による講演会など、より多様な場を定期的に設け、こちらからの支援メニューの発信をしていくことで、保護者自身が少しでも多く外とつながり、辛さをひとりで抱えない、という状態を安定的につくることが大切だと感じた。今後は個別の支援だけでなく、親の会や講演会などといった場も安定して実施できるよう計画していく。</p> <p>○進路、就職などといった相談にも対応できるようにしていきたい</p> <p>相談者としてのメインは、小中学生の子どもの保護者を想定しているが、もちろん中3・高3の進路・就職を控えたケースもある。全体の相談数が増えていくにつれて、進学・就職といった面での相談内容も増え、通信制高校や就労支援といった知識が必要とされるようになっていった。特に高3生・就労支援の部分については知識不足な点も否めず、改めてこの分野についても支援員間で学んでいく必要性を感じた。研修会等を通して学びを深めていく。</p>
-----------	---

VIII. 他団体との連携

連携先	実施内容・結果
栃木県教育委員会	2021年秋、栃木県教育委員会が初めて開催した「フリースクール等連絡協議会」にて、各市町の教育委員会担当者と意見交換をした。
県内フリースクール	居場所マップ作成において、県内計11か所（うち2か所は当会運営）のフリースクールとつながりができ、今後の連携のきっかけをつかむことができた。
フードバンク宇都宮	生活困窮家庭のLINE相談を受けた際に、食糧の支援をするため、フードバンク宇都宮に協力を仰ぎ、食糧支援を実施できた。

IX. インプット ※事業完了月の月次収支管理簿の金額を入力ください。（精算金額と一致させる必要はありません）

		計画額	実績額	執行率
事業費	直接事業費	2,561,100	2,560,562	100.0%
	管理的経費	0	0	#DIV/0!
合計		2,561,100	2,560,562	100.0%
補足説明				

X. 広報実績

広報内容	内容
1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）	<ul style="list-style-type: none"> ・堀潤8bitNewsにて掲載（https://www.youtube.com/watch?v=XhRYWVvo6uw） ・2021年11月19日放送された、NHK「おはよう日本」にて、LINE相談窓口を中心に特集 ・2021年11月5日下野新聞にて、当会がLINE窓口でとったアンケート結果が掲載

2.広報制作物等 当該事業費を使って制作したもの	・栃木県フリースクールマップを作成（実物を別途添付する） ※作成途中のため、提出物は未完成のもの。
3.広報制作物、購入物等でシンボルマークの活用方法（事例）	・上記、制作物内にて「休眠預金」を使用した旨を掲載
4.報告書等	特になし

XI. ガバナンス・コンプライアンス実績

①規程類※の整備実績 ※規程類：定款・規程及び準ずる文書類(指針・ガイドライン等を含む)	状況	内容
1.事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。	完了	
2.上記設問1で「整備中」の場合は、事業開始時と比較して、整備状況がどのように改善されたかを記載してください。		
3.整備が完了した規程類を自団体のwebサイト上で広く一般公開していますか。	未公開	書面は作成したが、総会での決議をとれていないものがあるため。
4.変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。	変更があり報告済	
②ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1.社員総会、評議員会、理事会は、規程類の定める通りに開催されていますか。	はい	
2.利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	はい	
3.関連する規程類や資金提供契約の定めどおり情報公開を行っていますか。	いいえ	規定類は作成できたが、まだ総会にて承諾を得られていないため、情報公開していない。 2022年度第1回の総会にて、会員の承諾を得た上で公開予定。
4.コンプライアンス委員会またはコンプライアンス責任者を設置しましたか。	はい	この事業実施前は設置していなかったが、2021年度中に設置が完了した。
5.ガバナンス・コンプライアンスの整備や強化施策を検討・実施しましたか。	はい	・コンプライアンス委員会や担当理事の設置をした。今後、委員会の監視もある中で、活動を進めていけるよう、委員会とのやり取りの機会を増やしていくことを検討。
6.報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。 (実施予定の場合含む) (複数選択可)	<input type="checkbox"/> 外部監査 <input checked="" type="checkbox"/> 内部監査 <input type="checkbox"/> 実施予定はない	・今後実施予定。4~5月中旬に、監事より会計書類を確認してもらい、監査を実施する。その実施した結果を記した書面を、市へ提出する。
7.本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金等を申請、または受領していますか。	いいえ	
8.内部通報制度は整備されていますか。	いいえ	

XII. その他

自由記述